

# 文教福祉委員会活動報告

当委員会は10月20日と11月18日に市内現地調査を実施しました。秋晴れの清々しさに加え、我がまちに残る文化財の再確認ができたことはコロナ禍ではありますが、とても良い時間となりました。

10月20日は、市学芸員の説明を受けながら、国史跡<sup>ちょうじゃがだいらかんがいせきつげたりとうきんどうあと</sup>長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡、旧七合中学校及び烏山城跡の文化財の現状と管理状況の確認をしました。長者ヶ平官衙遺跡の一带は、八幡太郎義家の長者屋敷焼き討ちの伝承が語り継がれており、いまだに当時の焼米が出土します。

旧七合中学校には、旧烏山町と旧南那須町の郷土資料館から運び込まれた文化財が、所狭しと展示されていました。市内小中学校の児童生徒の見学や、貸し出しをしているとのことでした。

烏山城跡は足元が滑りやすく、何度も転びそうになりながら登りました。その途中には、積み上げられた石垣が出迎えてくれました。自然石をあまり加工せずに積み石として用いた野面積<sup>のづらづ</sup>みが特徴なのだそうです。今では木々に覆われ城があったとは思えませんが、まるで木々が城を外部から守っているように思いました。今後は、文化財を保護するだけでなく、新たな活用方法について当委員会でもしっかりと議論して検討していく考えです。

11月18日には、烏山中学校へ出向き、授業及び施設の見学と校長との意見交換をさせていただきました。新型コロナウイルス感染症により休校した授業時間の不足をどう対応しているかをはじめ、読書活動についてなど何点かの質問に対して丁寧に答えていただきました。教育現場の現状等を実際に見ることで、市内中学校の状況を把握することができました。また、学校側から要望を受けるなど、とても有意義な機会となりました。

文教福祉常任委員会 委員長 矢板 清枝



市学芸員から烏山城跡石垣の説明を受ける委員



烏山中学校での意見交換会